

番号	課名
H - 1	消防本部総務課

事務事業名	消防団消防機械庫新築事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	Ⅶ-21-49	救急体制・消防力の充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	消防団を中核とした地域防災力の充実強化	
	関連施策名(施策コード)	-	

事業内容(経緯)	老朽化が進んでいる機械庫を新築し、効率的な出動体制の確立および災害時の団員の待機・休息場所を確保します。また、災害拠点施設としての機能を十分に果たせるよう、建設地の厳選をします。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	消防機械庫の新築数	単年度整備数	棟	1	1		1	1
②								
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	消防機械庫の新築数					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	単年度整備数				
	27,558	34,485	内容	工事請負費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	地方債、一般財源			1.0	1.0	-	1.0	1.0

事業対象	消防団	今年度の成果	臼杵方面隊第9分団2部(泊ヶ内地区)の機械庫が、築40年以上経過していましたので、海辺に近い場所から防災上利便性の高い場所に移転、新築工事を行いました。
------	-----	--------	--

成果指標	指標名	整備後30年以上経過の機械庫老朽化率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	整備後30年以上の老朽化率(全57棟)(30年以上経過の機械庫数÷全57棟)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	消防団の活動拠点となる機械庫の老朽化の改善を図るため	%	50.81	50.00	55.00	56.14	56.14

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	管轄する地域内で災害時でも被害の影響が少ない用地を確保するとともに、新築したことによって、地域の住民とのつながりが強くなり、住民の安心にもつながると考えます。	

事業の問題・課題	災害時の拠点施設としての機能を十分に果たせるよう、建設地の選択が重要になります。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
H - 2	消防本部警防課

事務事業名	耐震性貯水槽新設事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	Ⅲ-8-14	防災・減災のための環境整備
	施策の課題(事務事業の実施目的)	南海トラフ地震等の発生が喫緊の検討課題です。地震発生時に、消火栓、防火水槽が破損し使用できない場合でも、消火水を確保する為に、耐震性の貯水槽を計画的に新設しています。	
	関連施策名(施策コード)	Ⅶ-21-49	救急体制・消防力の充実

事業内容(経緯)	南海トラフ地震等の発生が喫緊の検討課題です。地震発生時に、消火栓、防火水槽が破損し使用できない場合でも、消火水を確保する為に、耐震性の貯水槽を計画的に新設しています。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	耐震性貯水槽新設数	単年度整備数	基	2	2	2	-	2
②								
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	耐震性貯水槽新設数				
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般		説明・算式・引用	単年度整備数			
	-	17,609	内容	耐震性貯水槽新設	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	消防防災施設整備費補助金		2.0	2.0	2.0	-	2.0

事業対象	消防署・消防団	今年度の成果	臼杵地区、野津地区に各1基の耐震性貯水槽を新設完了しました。設置地域周辺には今まで、耐震性貯水槽がなかったため、地震時に向け消防力が強化できました。
------	---------	--------	--

成果指標	指標名	防火水槽の耐震化率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	総合計画目標値2024年までに50基(耐震性貯水槽設置数÷50基)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	地震時の消火用水の確保		%	88.00	92.00	96.00	96.00

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	通常の火災時にも、地震時にも消火水が確保出来るので、消防署・消防団の消火隊は元より、地域住民の安心・安全にもつながっています。				

事業の問題・課題	地震時に消火水としての機能を十分に果たせるよう、建設地の選択が重要となります。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	順調	貢献度 大	向上	施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。